

第1回帯広市農業・農村基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年8月8日（木） 18:25～20:45

場 所：帯広市農業技術センター 会議室

出席者：委員9名（別紙名簿のとおり）、事務局12名

※委員2名欠席（野原幸治委員、斎藤一成委員）

<概要>

令和2年3月に策定した帯広市農業・農村基本計画（以下「基本計画」）について、計画期間の中間年となる本年において、食料・農業・農村基本法の改正や、農業・農村をめぐる情勢の変化、計画の進捗状況などを踏まえ、計画最終年度である令和11年度の目標値設定など、基本計画の改定作業を行うため、委員会を設置し、協議したものの。

また、課題解決のための取組等を検討する土台として、認定農業者等を対象にした農業者アンケートの実施にあたり、設問項目等の内容について協議したものの。

1 開会

2 開会挨拶

3 議題

(1) 帯広市農業・農村基本計画検討委員会の設置について

委員長、副委員長の選出について

- ・事務局より設置要綱の内容等を説明。
- ・委員長に窪田委員、副委員長に川原委員が決定。

(2) 第6期帯広市農業・農村基本計画改定に係る考え方について

事務局より、配付資料中「第6期帯広市農業・農村基本計画の改定に係る考え方」、「食料・農業・農村基本法改正法の概要等について」、「食料・農業・農村基本法改正法の主な改正箇所について」に基づきそれぞれ説明。

委員長が改正法の4つの改正ポイント（①食料安全保障の確保、②環境と調和のとれた食料システム、③人口減少下における農業生産の方向性を明確化、④人口減少下における農村の地域コミュニティの維持を明確化）を切り口に、各委員の意見を聴取。

①食料安全保障の確保

<委員>

基本法改正法の中でも食料安全保障は「食料安全保障を基本理念の中心に」と一番前

に打ち出されており、特に適正価格の形成が話題になっていた。

農家目線で言うと、適正価格の形成のハードルが高いのであれば、ヨーロッパのように直接補償や経営所得安定対策の充実を期待したいところだが、個人・地方でどうにかなる話ではないので、この記載されている安全保障という内容については十分ではないかと感じている。

<委員>

平成 14 年頃と比べると肥料価格は 2 倍、人件費も日給 6,000 円から 15,000 円程度まで上がっている。個々の農家の視点で言うと経営危機に直面しており、3 年程前から経営環境が一番悪くなっているのではないと思う。中東情勢も不安定であり、現状維持の経営が厳しい中で、肥料や農薬、燃料の価格が下がらなければより大変になる。

②環境と調和のとれた食料システム

<委員>

我が家では小麦の後に燕麦（えんぱく）を撒いたりしている。取組の課題として除草剤が使えないことなどがある。

<委員>

技術を高め生産のロスをなくしていくこと、国に対して具体的な支援を求めていくことしかないと思う。十勝の農業はレベルや生産性が高いが、まだ少しずつ詰められるところはあると思うので、できる限りのことをやっていくしかない。

国は化学肥料の削減を進めようとしているので、良いものを作っていくために新たな肥料の開発や有機質肥料の自家作成、副産物を肥料として利用するなどの取組を少しずつ進めていくことしかないと思う。

③人口減少下における農業生産の方向性を明確化

<委員>

全国的に農業人口が減少して 1 戸あたりの面積が増えている。当地区も同傾向で、今後 10 年、20 年を見据えた中では 1 戸あたり 40 町※、50 町クラスの生産面積が増えていくと考えられる。それをカバーするにはスマート農業の導入が必要となるが、スマート農業機械はかなりコストがかかるため、それに見合う生産性向上の取組や価格転嫁がなされなければ農業経営に支障をきたすので、農業技術の開発と併せて適正な価格の形成に取り組まなければならない。

<委員>

私の地域では平均耕地面積が 30 町を超えているが、増えた要因は辞める人がいるか

ら。今後 20 年、30 年先を考えると、さらに平均耕地面積は増えていくと思う。

ロボットトラクターも出てきているが、プラスアルファで考えていかなければ正直広い面積の作業をこなすことは難しい。面積増をスマート農業でカバーしても、作業が粗くなって反収が下がる。反収低下は面積拡大で補えるように見えるが、実際そうではない。農産物の価格が上がらなければ機械が買えず、スマート農業の導入も難しくなる。

国の補助事業は条件に合致しないものが多いので、もう少し現場に合ったものが示されないと生産性の向上につながらないし、離農が進むことで地域コミュニティ等がどんどん崩壊していくと思う。

④人口減少下における農村の地域コミュニティの維持を明確化

<委員>

人手が足りない中で研修生を受け入れているところもあるが、受け入れる体制として、住環境をはじめ様々な課題がある。

<委員>

音更町で開催される麦感祭等の農業にまつわるイベント・企画を行うことで農家さんたちも元気になる。また、大学生が農家バイトに行くことも農村コミュニティの活性化に繋がるかと思う。

<委員>

多面的機能支払交付金がなかった時代は、自分の畑に面した道路は自分で草刈りをしていた。交付金が出てからは、地域が協力・交流しながら草刈りなどをするようになり、普段話さない人ともコミュニケーションが取れるようになって良かったと思う。

人口減少が進んでいく中、仲間作り、情報交換、コミュニケーションは今後より重要となるので、地域で協力・交流できる仕組み作りが大事だと思う。

<事務局>

国の法律改正を踏まえ、市としては大規模農業を展開している帯広・十勝の現状を国に伝えながら、具体的な施策につなげていく必要があると感じた。

それぞれの意見は、現行の基本計画の中の柱立てに位置づけはされており、今後国の新たな基本計画の動きなども踏まえながら、基本計画の内容の議論を 10 月にさせてもらいたい。

(3) 第 6 期帯広市農業・農村基本計画の指標について

事務局より、第 6 期帯広市農業・農村基本計画の指標について説明し、各委員の意見を聴取。

<委員>

長いものは輸出ありきではなく、あくまでも農家の所得向上に繋がる付加価値の高い作物として栽培しているので、輸出量の目標値設定は難しいと思っている。

スマート農業は、量や質を向上させて所得を上げるのではなく、今生産できている量を維持するために導入する考えであり、スマート農業の導入が農業産出額の向上に直結するものではないと思っている。

農業産出額は増加に期待する一方で、異常気象を考えると正直予測がつかないところ。令和元年度から5年間の前年度比の平均増加率は2.9%となっており、このまま右肩上がりで上昇していくと考えれば、この2.9%を向こう5年間かけていって目標値とする、あるいは9割の2.6%としても良いと思う。ただ、上昇トレンドというだけで根拠があるわけではない。

<委員>

農業産出額の指標は、相場に左右されやすく、なかなか見通しが難しい。今後の農業のためには、品質の安定や安定生産により取り組んでいかなければならないので、産出額の目標値はどの作物を増やすのかということも踏まえながら上昇する形が良いかと思う。

GPS ガイドランスの普及率は7割以上に達しており、今後も普及拡大が予想されるので、上方修正が必要。

輸出は、目標基準値の平成30年以降、長いもの作付面積が減少傾向となっており、現在横ばいで推移しているので、このままでは目標値4,300tの到達は難しい状況。このままの目標値が良いのか、実態に合わせて下方修正するのが良いのか、逆に他の作物を含めて輸出拡大の機会があるならばこの目標値で良いと思う。

農業理解に資する体験・学習に参加した市民の数は、農業体験学習や地産地消の推進が適正な販売価格形成に向けた理解の促進に繋がると思うので、帯広市には頑張って取組を増加させてもらいたい。

<委員>

各目標値の設定に向けた矢印の方向は概ねこれで良いと思う。ただ、農業産出額が近年の伸びを維持できるか疑問であり、特に畜産関係は頭打ちではないかと思っている。とはいえ、目標値としては上昇させていくことになるのかと思う。

これからはスマート農業の流れとなり、機械まかせで容易に作業ができるようになるが、土づくりや発情のタイミングの見極めなど、農業の基礎的な知識がベースにあってこそだと思うので、そういった体制整備も一緒に考えていくことが重要。

<委員>

我が家では GPS ガイダンスシステムを導入しているが、スマート農業によって作物を増やすよりも人件費の削減となっている。今は営農が成り立っていても、今後の後継者問題等を考えるとスマート農業を導入していかなければならないのではないかと考えている。

農業理解に資する体験・学習に参加した市民の数について、コロナ禍でイベントがなかったと聞いたが、生産者として地場の農作物を味わってもらい、美味しかったと思ってもらうことに喜びを感じるので、イベントはどんどん増やせると良いと思う。

<委員>

森林整備面積に関して、森林は成林になるまでに 20 年、30 年とかかるため、世代を跨いで森林の素晴らしさを啓蒙していくことを考えなければ、土地の売却が進んでしまうのではないかと。

<委員>

私の子どもは農業体験学習として姉妹都市交流を経験しており、私はいずれ修学旅行生を受け入れてみたいとも考えている。

更別村では、ふるさと納税の返礼品として金時豆を使ったお菓子があるが、帯広市にはそういうものがない。地場農産物を使ったお菓子などができれば、もみじまつりや八千代牧場まつり等での販売を通じて PR ができる。また、規格外品を安く買える場所を作りたい。

<委員>

各目標値の矢印の方向は大体良いと思いつつ、他の委員が言われたとおり農業産出額はそこまで伸びないと思っている。面積を拡大すると手のかからない作物が増えて単価が低下するため。

スマート農業は増えると思うが、根本的な技術を有している上でのスマート農業の普及でなければならない。実際に、ロシアのウクライナ侵攻時に GPS ガイダンスが使えずトラクターが動かなくなる等の事例があった。スマート技術に頼り切りではなくて、自分の肌で感じて、自分で畑を歩いて、自分で改善していくことが重要。

<委員>

農業体験・学習に参加した市民の数について、今年緑ヶ丘公園のイベントで市民の方への PR や野菜の販売などをしたが、もっと市民に農家の取組を紹介して農業理解を促進したら良いと思った。麦感祭のような市民が楽しめるイベントを増やし、スマート農業も畑アート等を通じて市民に楽しく伝えられると良い。

<委員長>

皆さんから様々ご意見をいただきましたが、目標値の矢印の方向性は概ね問題ないものと考えております。

<事務局>

産出額の目標値設定は農協の振興計画なども加味しながら整理したい。

スマート農業の普及は農業産出額と連動しないのご意見はあったが、労働力不足を補うためには普及すべきとの視点は合致していたと思う。また、この指標には出てこないが、施策の中で機械頼りではない、農業基礎技術を持った人材育成を意識したい。

輸出量の目標値設定は難しいとお話があったが、牛肉が伸びている実績も踏まえた目標とする考え。ただし、あまり現実と乖離した目標では実現性がないため、達成できる裏付けなり施策を意識した設定をしたい。

農業体験の関係は、市の施策のみならず、農協が行うイベント等とも連携していきたい。

(4) 第6期帯広市農業・農村基本計画の改定に係るアンケート調査について

事務局より、第6期帯広市農業・農村基本計画の改定に係るアンケート調査について説明し、各委員の意見を聴取。

<委員>

設問21で、酪農と畑作の両方を行っている経営体があるが、この中で1番重要と考える選択肢を選ぶのか。

<事務局>

何を優先すべきかの1番を確認したく、選択肢は畑作、酪農家それぞれが答えられる選択肢とした。5年前との比較検討という意味でも、回答する選択肢は一つとしたい。

<委員>

6番のその他もあるので、了解した。

<委員>

設問31は、18個の選択肢1つ1つが重要だが、優先度をつけて3つを選択するということか。どれも大事なことになるので選ぶことが難しい。

<事務局>

選択肢はどれも大事なものと考えており、その中でもどう優先順位を付けて対策を講

じていくべきか、現場の方々の考えを把握したく3つの選択とした。

＜委員＞

了解した。

＜委員＞

方向性としては良いと思う。

＜委員＞

5年前と比較するのであればアンケート内容は変えるべきではない。

＜委員長＞

事務局としては、地域農業の現状を踏まえて質問項目を一部修正したいということ。
この内容でアンケートを進めるということで良いか。

(異議なし)

(5) その他

事務局より、次回の検討委員会はアンケート調査実施後の10月を予定していることなどを連絡。

以上

帯広市農業・農村基本計画検討委員会

委員名簿

(敬称略)

	氏 名	選任区分	勤務先・所属・公職等
1	ヨシダ スミオ 吉 田 速 男	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 営農振興部長
2	イケダ ヒデキ 池 田 英 樹	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 営農振興部長
3	ノハラ ユキハル 野 原 幸 治	農業者及び農業団体を代表する者	川西バイオマス株式会社 代表取締役 北海道指導農業士
4	スギモト ヤスコ 杉 本 康 子	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 女性部 部長
5	スドウ キョウスケ 数 藤 恭 輔	農業者及び農業団体を代表する者	北海道農業士
6	コモリ タカヒロ 小 森 隆 寛	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社東桜ファーム 会長
7	ドウミ カオリ 道 見 香 織	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 女性部 部長
8	サイトウ カズナリ 斎 藤 一 成	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社斎藤農場 代表取締役 北海道農業士
9	クボタ サトコ 窪 田 さ と 子	学識経験を有する者	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学 准教授 帯広市農業委員会農業委員
10	サイトウ ミユウ 齊 藤 実 優	その他市長が必要と認める者	農業サークル「あぐりとかち」 代表 帯広畜産大学畜産学部畜産科学課程 食品科学ユニット3年
11	カワハラ ナリト 川 原 成 人	学識経験を有する者	北海道十勝総合振興局産業振興部 十勝農業改良普及センター 次長